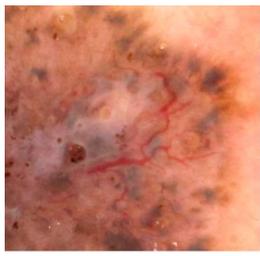


令和2年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題(2021/02/12)

臨床写真



ア



イ



ウ



エ



ケ



オ



カ



キ



ク



コ



サ



シ

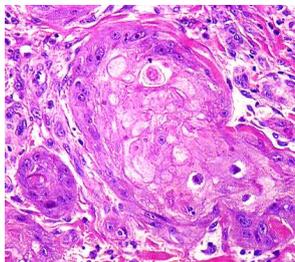


ス

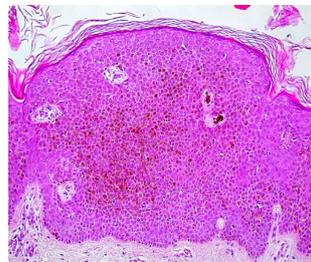


セ

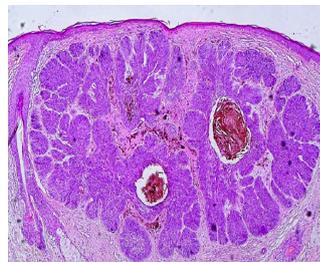
組織標本写真



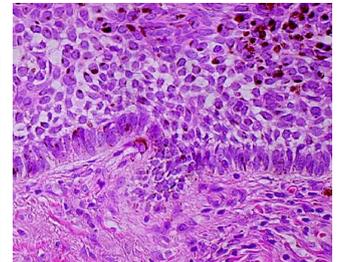
1



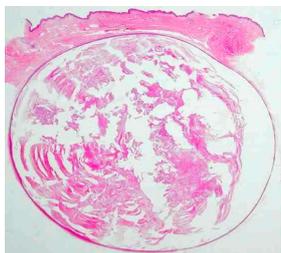
2



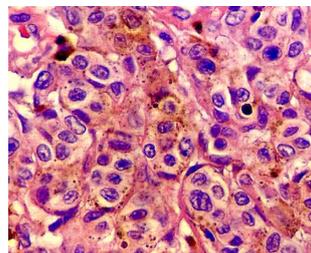
3



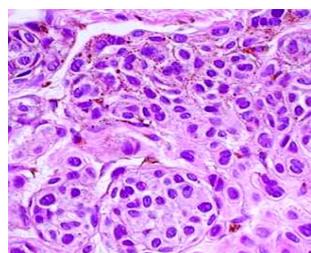
4



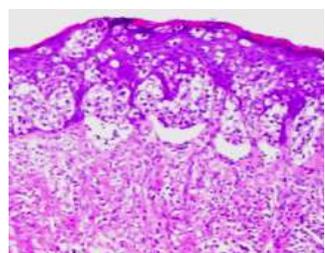
5



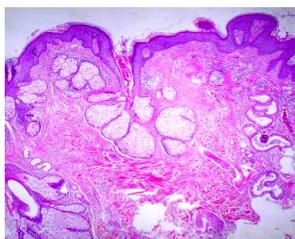
6



7



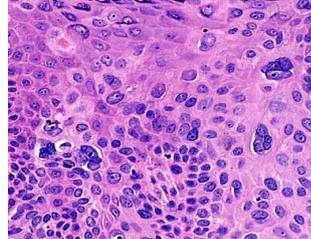
8



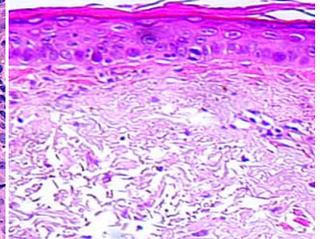
9



10



11



12

各文章を読み()内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患をカラー写真から写真(ア～セ)を[]に、組織標本(1～12)を選んでく >に記入しなさい。(写真と組織は同一の患者さんのものではありません)。

1.湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局面内に腫瘤が生じ、所属リンパ節転移が生じる。初期では()や()と誤診されることがある。この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織はく >である。

2.多くは顔面に生じる腫瘍で、転移はほとんどない。しかし局所侵襲性は強く、()まで浸潤する例もある。この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織はく >である。この腫瘍細胞の辺縁では組織写真<4>の細胞配列が特徴的で、これを()と呼ぶ。また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[]である。

3.転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚以外にも生じることがあるが日本人では()に生じる割合が多い。母斑細胞母斑との鑑別診断では、この腫瘍の特徴をABCDEの頭文字で皮疹を表現することもあるが、このCの意味は日本語で ()である。

この腫瘍の組織診断のための検査では、なるべく()をしない方が良い。

また、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[]である。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織はく >である。

最近では治療薬剤の開発が進み、根治切除不能な場合は、摘出組織の()の有無によって、薬剤の使い分けを検討し()や()を用いるようになってきている。術後や薬物治療中の経過観察には()を半年～1年毎に行うことが多い。

4.糖尿病による潰瘍の多くは足部に生じるが、これに合併する神経障害によって生じる場合の臨床写真は、[]で、治療は()である。一方、合併する動脈閉塞によって生じる場合の臨床写真は[]で、治療は()であるが、進行して潰瘍が拡大する場合は()が必要になる場合もある。

5.静脈性潰瘍の多くは()に生じ、難治性であるが、これには()によるものと、深部静脈血栓症後遺症によるものが多い。臨床所見はよく似ていて、その写真は[]で、これらの疾患に対して最初に行うべき重要な治療法は()である。

3年生()番 氏名()